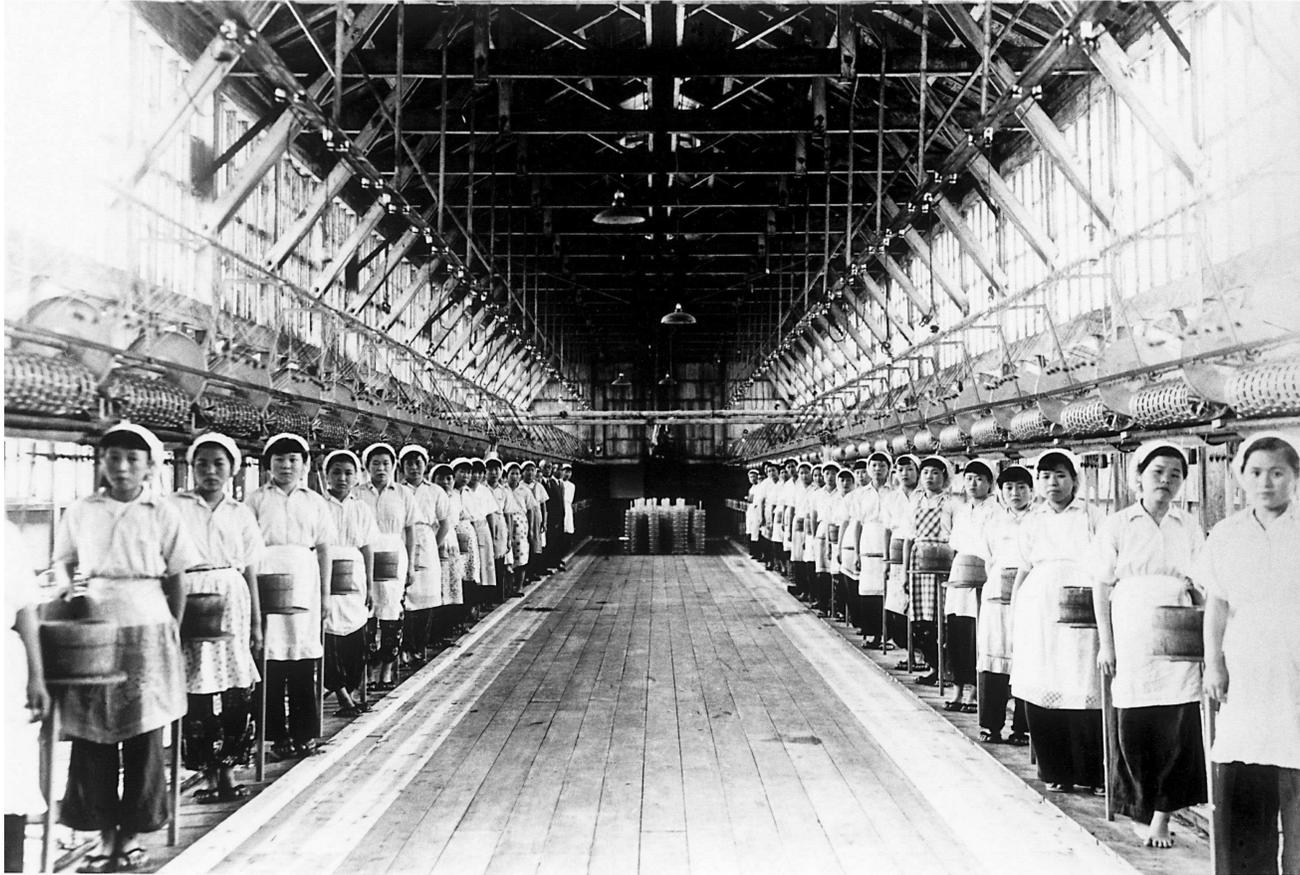
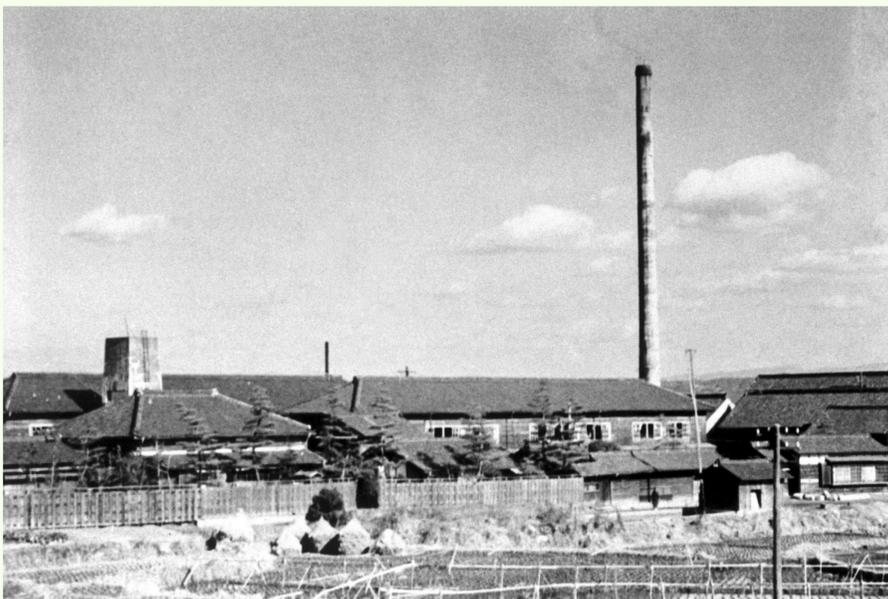


加 茂 蚕 糸

～戦後、愛知県下最大の製糸工場～



繰糸工場(織田式多条繰糸機を導入の記念写真) 昭和29年(1954)



旧加茂製糸工場

明治の始め、^{ころも}孝母藩では桑苗を移入し養蚕を奨励し、日露戦争後は製糸工場も次々設立されました。長野県下伊那郡龍江村(現飯田市)で山二製糸所を経営していた木下富、信父子が孝母へと移り、1917年(大正6)には厚生館製糸場(明治31年、岩井音五郎が創設)を基礎に西加茂製糸場を設立しました。大正時代、孝母町には約10の製紙工場がありましたが、最盛期には120釜を備え、従業員300人で孝母町では最も大きく、また昭和33年愛知県下では最大の工場となりました。その後名称や組織を変え、1981年(昭和56)3月まで創業を続けました。現在跡地は豊田市産業文化センターとなっています。

初代会長の木下信は1937年(昭和12)に、西加茂郡の養蚕製糸業者を合同して、保証責任西加茂繭糸販売組合が設立されると、組合長に就任するなど西加茂郡を代表する製糸家となり、1958年(昭和33)に藍綬褒章を授章、1962年には豊田市名誉市民に推挙されています。

明治の始め、^{ころも}孝母藩では桑苗を移入し養蚕を奨励し、日露戦争後は製糸工場も次々設立されました。長野県下伊那郡龍江村(現飯田市)で山二製糸所を経営していた木下富、信父子が孝母へと移り、1917年(大正6)には厚生館製糸場(明治31年、岩井音五郎が創設)を基礎に西加茂製糸場を設立しました。大正時代、孝母町には約10の製紙工場がありましたが、最盛期には120釜を備え、従業員300人で孝母町では最も大きく、また昭和33



豊田市名誉市民・初代会長
木下 信